



ヒューマニティーズセンター
Humanities Center

2025年1月31日(金)
17:00 - 18:30
Zoom オンライン開催

共産主義圏ヨーロッパにおける日本文学の翻訳

東京大学ヒューマニティーズセンター第127回オープンセミナー

報告者：

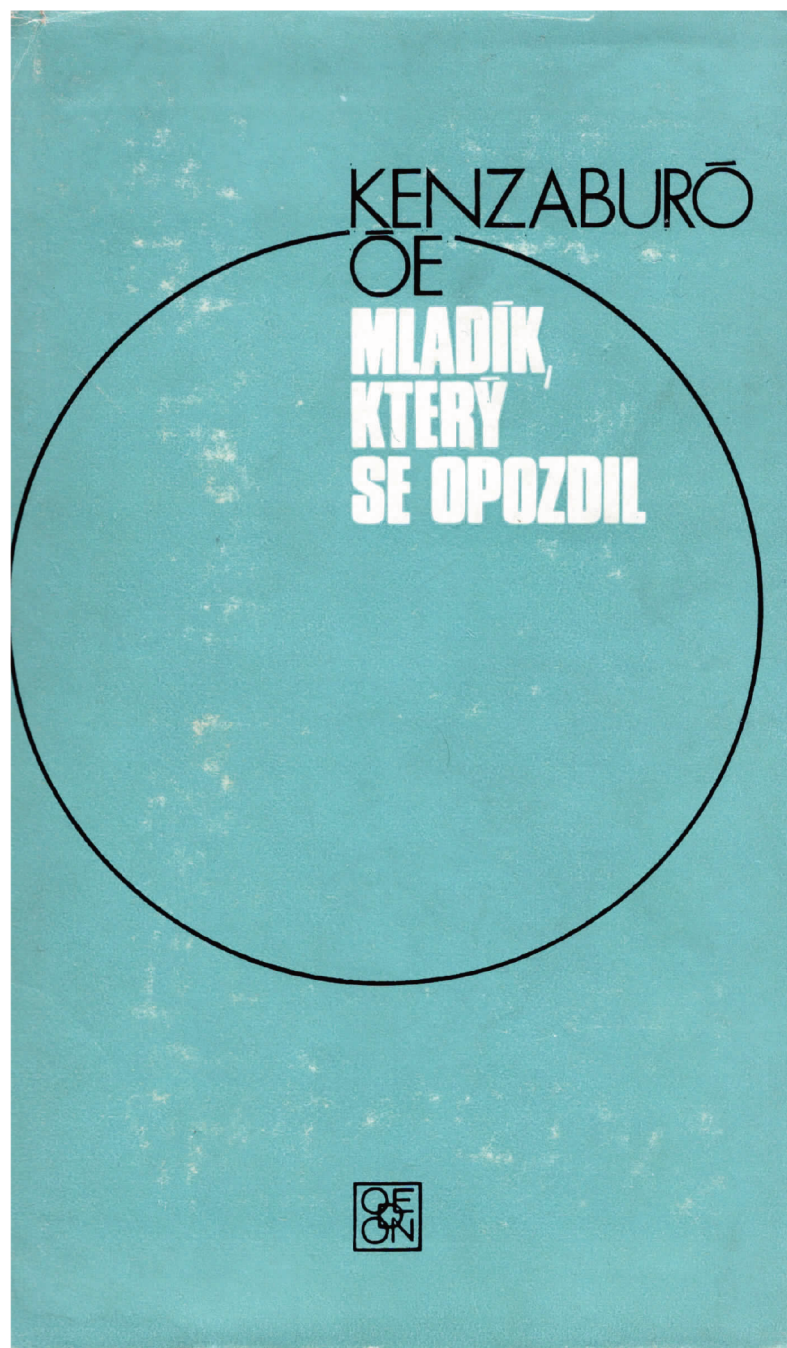
阿部賢一

(東京大学准教授)

コメントータ：

イリナ・ホルカ

(東京外国語大学
准教授)



要事前登録

共産主義圏ヨーロッパ、いわゆる「東欧」において、西側の文化の受容には様々な制約が加えられていたことはよく知られている。日本文学の翻訳に関しても同様であり、翻訳作品の選定に関しては、三島由紀夫が敬遠された一方で安部公房が積極的に訳出されるなど、東欧独自の基準が存在していた。本報告では、チェコの事例を中心に、解説等のパラテキストの読解を行ないながら、東欧における日本文学の翻訳の様相について検討する。

図版：大江健三郎『遅れてきた青年』のチェコ語訳、ヴラスタ・ヴィンケルヘーフェロヴァー訳、1978年刊。

主催：東京大学ヒューマニティーズセンター